

昭和41年3月14日第三種郵便物認可 第37巻第7号・通巻431号 平成13年10月10日発行(毎月1回10日発行)

The FINANCE  
October.2001  
Vol.37 No.7

10

# ファイナンス



大きな脳の使い方...◎中村 桂子 巻頭言

座談会「国債市場のこれから」



国債市場になっ

発行体だけでは  
りますよね。こ  
になってきます。  
は、日本国債の  
いう観測が一旦  
香さんがこの国  
、結局は全部そ  
ね。

経済、そして金  
れについての議  
となったものと

に発行したもの  
戻されるわけで  
過去・現在・未来  
のです。その市  
が注目して、北極  
っていくことが大

から財務省が果  
です。

話を聞かせて頂  
ございました。

1日に行われまし

# ATTACK ON AMERICA

## ——そこで見たこと——

国際協力銀行開発金融研究所  
(駐ワシントン)

保井 俊之

(平成13年9月13日記)

当地9月11日(火)に米国ニューヨーク及びワシントンで発生したハイジャックによる同時多発テロについては、当駐在に対し、多くの皆様から御心配をいただき、ありがとうございました。

また、ニューヨークのワールド・トレード・センターをはじめ各地で事件に巻き込まれた方々に対して心よりお見舞い申し上げます。特に、この事件により負傷された方が一日も早く回復されること、いまなお行方不明の方が無事生還されること、また不幸にして亡くなられた方に深い哀悼の意を表します。

今回の事件については、日本からのみならず、世界各地より、安否をたずねる電話やメールをいただきました。その一人一人にお返事申し上げたいのですが、時間の制約もあり、このような形のご報告とさせていただきます。

私は、9月11日の事件当日、全米ビジネスエコノミー協会主催のセミナーに出席するためワールド・トレード・センター内のマリオットホテルに滞在しており、同センターで起こった一連の事件を体験しました。そこで見たことを記録しておくことは、自分自身の気持ちの整理のみならず、今後のアメリカ政治経済の動向を見守っていく上で意義があることと考えるので、以下、時系列を追ってご報告申し上げます。

### 1. ホテルの外に出るまで

事故当日の朝、ワールド・トレード・センター第三号棟ビルにあるマリオット・ワールド・トレード・センター・ホテルの五階の自室にて、私は荷物整理をしていました。

午前9時近く、天井の上の方から鈍い爆発音が二回聞こえ、床が地震のようにぐらぐらと揺れました。私はベッドの間にとっさに身を潜めました。

1分後、バラバラという音とともに、何千という金属片と紙・書類が豪雨のように降り

注いでくるのが、窓を通して見えました。廊下に飛び出してみると、きな臭いガスの臭いが次第に漂ってきており、ガス爆発ではないかと感じました。廊下に飛び出し、近くにいたアフリカ系アメリカ人のメイドさんと声を掛け合いながら反対側の部屋の窓から下を見てみると、紙片と金属片が路上に散乱しており、通行人が数人倒れていました。

そのとき、ホテルの非常ベルと即時避難を指示する放送が流れました。廊下で宿泊客と思われる白人女性が携帯電話をかけており、



素早くこちらを振り返ると、「何をやっているんだ、全員、下に降りろ」と叫びました。多くの宿泊客や従業員とともに、非常階段を小走りに下りていくと、ロビーには、既に外に小走りに走り出ていく人の流れができており、その流れに沿って外に出て行きました。

この時点では、ホテル内のおそらく誰もが、93年のワールド・トレード・センター爆破事件のような爆弾テロ、またはビル内のガス爆発による火災を想起していたと思います。

## 2. ワールド・トレード・センターから バッテリー・パークに走る

ホテルの外に出て行くと、警察官が数人ホテルの前に立ち、付近の人々に対して、「走れ、走れ、遠くへ走り続けろ」と指示を与えていました。避難する人々とともに、ワールド・トレード・センターの南にあるバッテリー・パークを目指して小走りに走り続けました。

振り返ってワールド・トレード・センタービルを見ると、一号棟ビル（北タワー）のかなり上層階から黒煙と黄色い炎がめらめらと上がっていました。我々が走っている方向と反対方向に、サイレンを響かせながら十数台の消防車とパトカーがかなりのスピードで走りこんでいきました。

ワールド・トレード・センターから2または3ブロック南に走ったところ、我々の行く手である南側の海上からジェット旅客機が、林立するビルをかすめるような低空で飛んでくるのが見えました。とっさに街路樹の陰にかがみながら後ろを振り返ると、飛行機は我々の頭上をかすめ、二号棟ビル（南タワー）の上層階に激突するのが見えました。付近の人々は悲鳴をあげながら、全力で走り出しました。

振り返ると、飛行機は二号棟ビル（南タワ

ー）に穴を開け、機体がビルの壁面に吸い込まれるように消えたかと思うと、真黄色の火焰とともに爆発し、もうもうたる黒煙がビルを包み込みました。

5分ほど後でしょうか、歩速を緩めて歩いていると、すぐ横に立っていた女性が悲鳴をあげました。振り返ると、ワールド・トレード・センターの二号棟ビル（南タワー）から人が飛び降り、墜落していくのが見えました。こうした光景は、われわれがバッテリー・パークに到着するまで、何回となく続きました。わたしはこの光景を思い出すたびに、今もいたたまれない気持ちで胸が張り裂けそうです。

## 3. ワールド・トレード・センター崩落

再び15分ほど小走りに走り続けた頃でしょうか、マンハッタン島の最南端にあるバッテリー・パークにたどりつきました。数百人の人が既にそこにおり、心配そうにワールド・トレード・センターを見上げたり、携帯電話をかけたりにしていました。しかし通信輻輳のせいか、電話は全く通じません。

その間にも、公園の横のウェスト・ストリートを何十台という消防車と警察車両がワールド・トレード・センターに向けて、サイレンを鳴らし、びゅんびゅんと走り去って行きます。

公園の中に入っていくと、海岸沿いで、私が参加しているセミナーの参加者十人弱がかたまって避難しているのが見えました。そこで、そのグループに入れてもらい、しばらく待機していることにしました。また、その場でニューヨークのJETRO事務所からセミナーに参加している日本人の方と偶然出会い、その方がミッドタウンの事務所に戻るということだったので、自分の生存と所在をワシントンの駐在事務所に連絡することをお願いし、快く引き受けていただきました。

セミナー「ワールド・トレード・センターの崩壊」を教えてくれました。まじらしい（議論）ってわかりました。

やがて、伊が先生に引の入口付近の地点まで、こごった返す。

我々のグループが弱体化した。ミッドタウンというこ

我々が歩いたって二号楼雲のようなでこちらにいた人々走り出し、としました。

すぐに36白い灰がばした。息苦隣の人が「さえたらいた二人と被りました。

## 4. 高速道

さらに5徐々に視界道路づたい

の壁面に吸い込  
 と、真黄色の火  
 たる黒煙がビル

速を緩めて歩い  
 た女性が悲鳴を  
 ールド・トレ  
 翰タワー) から  
 のが見えました。  
 バッテリー・パ  
 なく続きました。  
 たびに、今もい  
 り裂けそうです。

#### センター崩落

続けた頃でしょ  
 端にあるバッテ  
 した。数百人の  
 うにワールド・  
 たり、携帯電話  
 かし通信輻輳の  
 ん。

エスト・ストリ  
 警察車両がワー  
 向けて、サイレ  
 走り去って行き

海岸沿いで、私  
 加者十人弱がか  
 ええました。そこ  
 らい、しばらく  
 。また、その場  
 務所からセミナ  
 「と偶然出会い、  
 所に戻るとい  
 と所在をワシン  
 ことをお願いし  
 た。

セミナー参加者グループのうちの誰かが  
 「ワールド・トレード・センターにハイジャ  
 ックされた飛行機が二機激突したらしい」と  
 教えてくれました。「テロだ」と叫ぶ人もい  
 ました。また、国防総省と議事堂もやられた  
 らしい(議事堂は誤報であることが、後にな  
 ってわかりました)と、と別の人が言ってい  
 ました。

やがて、付近の公立学校から数百人の生徒  
 が先生に引率されて避難してきました。公園  
 の入口付近から私たちのいた海沿いのすぐの  
 地点まで、立錐の余地がなくなるほどの人で  
 ごった返すようになりました。

我々のグループは、男女老人取り混ぜて十  
 人弱でしたが、ここにいっても安全ではない、  
 ミッドタウンの事務所に行き、電話をかけよ  
 うということになりました。

我々が歩き出したとき、10時ちょうどぐら  
 いだったでしょうか、突然大きな爆発音とと  
 もに二号棟ビル(南タワー)が崩れ、きのこ  
 雲のような白く濃い噴煙がかなりのスピード  
 でこちらに迫ってくるのが見えました。そこ  
 にいた人々はとっさに雲の子を散らすように  
 走り出し、手近の建物や樹木の陰に隠れよう  
 としました。

すぐに360度視界が利かなくなり、頭上に  
 白い灰がばらばらと吹雪のように降ってきま  
 した。息苦しくて口をあけていられません。  
 隣の人が「何かタオルのようなもので口を押  
 さえたらいい」と教えてくれました。近くに  
 いた二人とともに転がっていた段ボール紙を  
 被りました。そしてワイシャツで口と鼻を覆  
 いました。

#### 4. 高速道路を歩く

さらに5分ぐらいい経った頃でしょうか、  
 徐々に視界が開けてきました。警官が「高速  
 道路づたいに北に逃げろ」と指示を出してい

ます。道路はすでに封鎖され、付近のビルか  
 ら水と防塵マスクが配給されています。

我々は徒歩で北上を続けました。道の右側  
 を数千人の避難者が歩いています。いずれも  
 表情は引きつっていましたが、おおむね冷静  
 でした。反対側車線を、サイレンを鳴らして、  
 パトカーに先導された十数台の救急車、ドク  
 ターカー、そしてショットガンを抱えた警官  
 を乗せたトラックが走りすぎていきます。

そのうちに、ニューヨーク市営バスが一台  
 止まり、「ミッドタウンに行く者は乗り込め」  
 と呼びかけてくれました。我々が灰で全身真  
 っ白であるのを見つけて、停車してくれたの  
 だと思います。

バスに乗せてもらった我々は、バスのラジ  
 オで、ワールド・トレード・センターのタワ  
 ーが二つとも崩落したことを知りました。バ  
 スは一番街と東40丁目の交差点で我々を下ろ  
 してくれました。そこから我々は、国連ビル  
 のまわりを大きく迂回し(国連ビルは既にひ  
 と気がなく、厳しい表情の警官が柵外を固め  
 ていました)、三番街を北へ、そして東51丁  
 目を西に歩き続けました。途中、我々のグル  
 ープの一人が軽い喘息の発作に見舞われ、病  
 院に立ち寄りしましたが、医師はすべて現場に  
 急行しており、薬は処方できない、といわれ  
 ました。我々はカフェで水をもらい、肩を寄  
 せ合いながら歩き続けました。

ミッドタウンの高層ビルにも避難勧告が出  
 ており、地下鉄とバス交通もほぼ麻痺し、  
 人々は徒歩で帰宅を急いでいましたが、状況  
 はほぼ平穏でした。

途中通り過ぎた聖パトリック大聖堂の前で  
 は、数人の教会関係者が事件の犠牲者のため  
 に祈る特別のミサへの参加を呼びかけるビラ  
 を道行く人々に配布していました。

公共施設や主な高層ビルの付近には警察と  
 消防が展開し、道路の封鎖と検問を行なって



いました。

## 5. ミッドタウンの高層ビルにも全員退去勧告

午後12時半を回った頃でしょうか、我々はロックフェラーセンター近くのバンクワン・アメリカの事務所にとどりつきました。そこで、水をもらい、トイレと電話を借りました。先に喘息の発作に見舞われた方は、そこから医師に連絡が取れました。

私はそこで皆にお礼を言って別れ、先ほど公園でお会いした日本人の方のオフィスである JETRO ニューヨーク事務所にご厄介になることになりました。日本総領事館もあまり安全ではない場所だとの噂を聞いていたからです。

JETRO 到着後、事務所の電話をお借りして、セミナーに同じ事務所から参加していた同僚の行き先を尋ね続けましたが、電話がほとんど通じません。

しかし、午後1時をまわってから通信事情はやや好転し、家族やワシントンの事務所と、断続的であったにせよ、連絡がとれはじめました。

ロックフェラー・グループの一部であるマグローヒル社の本社ビルに入居している JETRO にも、午後1時半過ぎ、テロの危険があるとして最終退去勧告が出されました。

ワシントンからは、ホワイトハウス事務局があるオールド・エグゼクティブ・オフィス・ビルの近くに所在する当駐在の事務所所員より、事務所にも退去勧告が出ており、全員退去するとの連絡が入りました。

ニューヨークのホテルは予約を受け付けないか、受け付けても長いウェイティング・リストになるようでした。そこで私は、ダウントウンのユニオン・スクウェア近くのアパートに住んでおられるという、JETRO からセミナーに参加されていた方に、無理をお願い

し、宿泊させていただくことになりました。そのお宅で同じ事務所からセミナーに参加していて事件に遭遇したもう一人の同僚と幸いにも落ち合うことができました。テレビから流れる臨時報道は、落ち着いたトーンで事実を繰り返して報道していました。

結局その夜は、テレビで情勢を分析しながら、男三人で仮眠をとりました。アパート近くのスーパーやレストランはほぼ平常営業であり、トイレット・ペーパーなどはやや品薄でしたが、買占めなどは全くおきていなかったとのことでした。

## 6. レンタカーでマンハッタン島を離れる

翌朝、地下鉄はほぼ平常運転ですが、飛行機は一切飛ばず、長距離鉄道も再開は望み薄のようでした。何とかワシントンに帰りたいと念じた私と同僚は、レンタカーで陸路ワシントンまで南下しようと決めました。

同僚が片っ端からレンタカー会社に電話していきませんが、ワシントンへの片道レンタルはまったく受け付けてもらえません。ニューヨークには非常事態宣言が出され、市当局は、市民に対してマンハッタン島をしばらく離れることを薦めていました。チャイナ・タウンのあるカナル・ストリートから南のオフィスは営業停止です。

20分の奮闘後、唯一予約を受け付けてくれた AVIS のオフィスへ行くと、そこも長蛇の列。二時間後ようやく配車の順番がまわってきました。

リンカーン・トンネルとホーランド・トンネルは引続き通行禁止です。ジョージ・ワシントン橋はマンハッタンから出る時のみ通行可能との由。道路は極端にすいていました。交通の要所を州兵と警察が固めています。ジョージ・ワシントン橋を渡り、ニュージャージー州、デラウェア州、そしてメリーランド

ファイナンス 2001. 10

州と南下  
自宅に帰  
時過ぎて

## 7. そこ

以上が  
とです。  
ことを記

### ① 事件

パニック

素早

誰も

を気遣

特に、

が飛

に落

### ② 事

消火

防宣

高い

高い

であ

ユー

早い

協力

### ③ 在

をは

在

でし

終

力

ま

た

と

二

二

大

になりました。  
ミナーに参加し  
人の同僚と幸い  
と。テレビから  
トーンで事実

を分析しなが  
と。アパート近  
まは平常営業で  
などはやや品薄  
おきていなかっ

#### ン皇を離れる

臣ですが、飛行  
も再開は望み薄  
トンに帰りたい  
カーで陸路ワシ  
ました。  
一会社に電話し  
の片道レンタル  
ません。ニュー  
され、市当局は、  
をしばらく離れ  
イナ・タウン  
ら南のオフィス

受け付けてくれ  
と、そこも長蛇  
車の順番がまわ

ーランド・トン  
ジョージ・ワシ  
出る時のみ通行  
いていました。  
めています。ジ  
、ニュージャー  
てメリーランド

州と南下し、首都近くにあるバージニア州の  
自宅に帰りついたのは事件発生翌日の午後8  
時過ぎでした。

#### 7. そこで体験したこと、そして思うこと

以上が、私が事件当日と翌日に体験したこ  
とです。以下、その際私が見たこと、感じた  
ことを記します。

##### ① 事件に遭遇したアメリカ市民は、冷静で パニックに陥ることはありませんでした。

素早く水とマスクが自発的に配布され、  
誰もがまわりの弱者（特に老人や年少者）  
を気遣い、お互いに励ましあっていました。  
特に、どんな危機的状況にあっても誰から  
か飛ばされるジョーク…これが人々の行動  
に落ち着きをもたらしていました。

##### ② 事件の発生に際し、自らの危険を顧みず、 消火と避難誘導に駆けつけ、殉職された消 防官及び警察官の方々の高いモラルに、 高い尊敬の念をささげます。まさに非常に 高い職業倫理の表れであり、高潔さの徴表 であると思います。事件発生当初から、ニ ューヨーク州および市当局は危機管理に素 早い対応を行ない、献血、献金など市民の 協力度合いも高かったと思います。

##### ③ 在ニューヨーク日本総領事館、JETRO をはじめとする日本の公的機関の事務所、 在ニューヨーク日本企業の危機対応は迅速 でした。多くの企業で事件発生後すぐに連 絡本部が設置され、関係者の不眠不休の努 力により、邦人の安否確認が迅速になされ ました。また、通信手段や宿泊手段を失っ た同胞に対する温かい支援をいただいたこ とは、深謝に耐えません。

##### ④ アメリカ合衆国はアンチ・テロで大きく 一つにまとまろうとしています（ブッシュ 大統領は事件後の声明で、“We are all

united”という言い回しを使っています）。  
議会の有力指導者は、「真珠湾攻撃以来の  
衝撃」という表現で、事態の深刻さを国民  
にアピールしています。

我が家の近くでも、星条旗を掲げる家々  
が目立ち始めました。オフィスの机上、カ  
バンのポケット、そして高速道路をまたぐ  
高架橋の上にも星条旗が掲げられだしまし  
た。湾岸戦争の時に感じたのと同様に、米  
国民の国民意識の高揚が見られます。

##### ⑤ ワールド・トレード・センターの全てと 国防総省の建物の一部は崩壊しましたが、 米国のほかの政治経済システムは平常どお り機能しています。卑近な例ですが、 ATMもe-mailも普段と変わりなく機能 しています。ガソリンの供給とその値段も 安定的です。

湾岸戦争以来、テレビ・メディアが事件  
現場を大きくかつ集中的に取り上げるよう  
になり、あたかもマンハッタン島全体がワ  
ールド・トレード・センターのような事態  
になったとややもすると錯覚しそうにな  
りますが、ワールド・トレード・センターの  
数ブロック先では、普段と変わらない生活  
とビジネスの営みが続けられていることを  
忘れてはなりません。

以上を総括し、アメリカの経済社会シス  
テムは強靱かつ柔軟で、米経済の回復にしばし  
の時間がさらにかかるとはあっても、この  
事件によってアメリカの経済社会システムが  
根底から大きく揺らぐことはない、というの  
が私の見方です。

いまなお行方不明の方、負傷された方、不  
幸にしてなくなられた方に心からお見舞いと  
哀悼の意を表し、また、このようなテロ行為  
に心からの憤りを再び感じつつ、ご報告を終  
わります。